

製品名: シンフィリン-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab18509

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	SNCAIP
別名	SNCAIP; Synphilin-1; Sph1; Alpha-synuclein-interacting protein
遺伝子 ID	9627.0
SwissProt ID	Q9Y6H5
免疫原	抗血清はヒトシンフィリン-1由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 797-846

背景

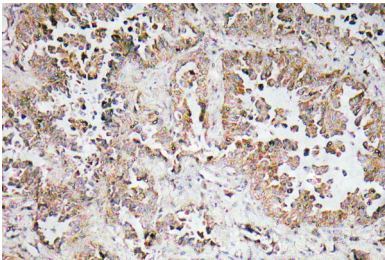
この遺伝子は、アンキリン様リピート、コイルドコイルドメイン、および ATP/GTP 結合モチーフを含む、複数のタンパク質間相互作用ドメインを含むタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、神経組織で α -シヌクレインと相互作用し、細胞

質封入体の形成や神経変性に関与している可能性があります。この遺伝子の変異はパーキンソン病と関連付けられています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2015年4月]、疾患：SNCAIPの欠陥はパーキンソン病 (PD) の原因です[MIM:168600]。PDは複雑な多因子疾患で、典型的には50歳以降に発症しますが、早期発症例 (50歳未満) も知られています。PDは一般に散発性疾患として発症しますが、単純なメンデル遺伝形質として遺伝することもあります。散発性パーキンソン病と家族性パーキンソン病は非常に類似していますが、遺伝性のパーキンソン病は通常、より若い年齢で発症し、非定型的な臨床的特徴を伴います。パーキンソン病は、動作緩慢、安静時振戦、筋強剛、姿勢不安定性、およびレボドパ治療に対する臨床的に有意な反応を特徴とします。病理学的には、黒質のドパミン作動性ニューロンの喪失と、脳のさまざまな領域の生存ニューロンにおけるレビー小体 (凝集タンパク質のニューロン内蓄積) の存在が関与しています。、その他：哺乳類細胞に共導入された SNCA および SNCAIP の一部をコードするコンストラクトは、パーキンソン病のレビー小体に似た細胞質封入体の形成を促進します。SNCA、SNCAIP、および PARK2 の共発現は、レビー小体様ユビキチン陽性細胞質封入体の形成をもたらします。PARK2 の家族性変異は、SNCAIP のユビキチン化とユビキチン陽性封入体の形成を阻害する。これらの結果は、レビー小体関連タンパク質のユビキチン化の分子的基盤を提供するとともに、PARK2 と SNCA が SNCAIP との相互作用を通じて共通の病態メカニズムに関与していることを示唆している。、PTM：ユビキチン化。SIAH1 または RNF19A によって媒介され、その後プロテアソームによる分解を引き起こす。、類似性：6つの ANK リピートを含む。、サブユニット：SNCA、RNF19A、および PARK2 と関連する。、組織特異性：広く発現しており、脳、心臓、胎盤で最も高いレベルで発現している。、

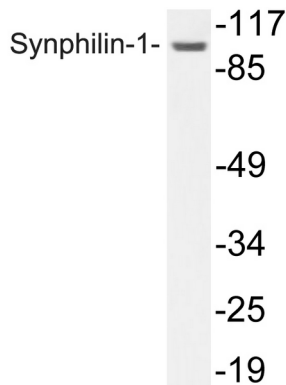
研究分野

パーキンソン病;

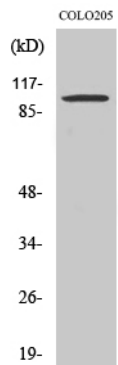
画像データ



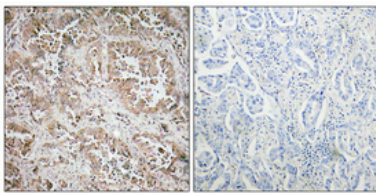
パラフィン包埋肺癌組織における Synphilin-1 抗体の免疫組織化学分析。



Synphilin-1 抗体を使用した COLO205 の溶解液のウエスタンブロット分析。



シンフィリン-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。